

Nicoliniら⁹⁵⁾は、同様のエピルビシン使用DEBを肝移植前の肝細胞癌患者8例に投与し、抗癌剤非使用塞栓 (EmbosphereTM) 例8例と比較した。治療は栄養血管が残存する限り2カ月1回行い、CTは3カ月毎に評価した。DEB群ではCRが77%の病変に得られたが、単純塞栓群では27.2%のみであった。組織学的壊死率も有意 ($p = 0.043$) にDC Bead群で高く、重大な有害事象もなかったと、DC Beadを評価している。

Poggiら⁹⁶⁾は、白金製剤Oxaliplatin使用のDrug-eluting microsphere (HepaSphereTM) を用いて、薬物動態のpreliminaryな結果を報告している。Oxaliplatinはmicrosphereに完全に結合し、腫瘍部位には周囲肝の約20倍の組織濃度になることが判明したとしている。Grossoら⁹⁷⁾は、ドキシソルビシンまたはエピルビシンとHepaSphereを平均径42mmの肝細胞癌治療に用いた50例のpreliminaryなデータを示している。1カ月後の奏効率はCRが48%、PRが36%、SDが16%であったが、6カ月後でもCRが51.6%、PRが25.8%であると、反復治療の効果が報告されている。

2. 動注化学療法の進歩

門脈浸潤を伴ったりTACE不応・TACE不能となったりした進行肝細胞癌に対する治療は、最新の治療ガイドラインではソラフェニブが推奨されている。わが国では現在でも、これら進行肝癌症例に5-FU+インターフェロン、5-FU+シスプラチンなどの持続動注化学療法が選択されることが多い。

これまではほとんどわが国のデータしか報告されておらず、持続動注化学療法は世界のコンセンサスにはなっていないが、2009年以後韓国から2報の研究が出された。Wooら⁹⁸⁾は、多施設無作為化比較試験で、5-FU+シスプラチン持続動注療法の際の薬剤を低用量群 (それぞれ170mg/

m²を1~5日目、7mg/m²を1~5日目) と高用量群 (それぞれ500mg/m²を1~3日目、60mg/m²を2日目に) に分けて効果を比較した。何れのレジメンも効果的だったが、高用量群では奏効率16.7%、生存期間中央値193日で、やや治療効果が良好であった。Eunら⁹⁹⁾は、52例に5-FU+シスプラチン持続動注療法 (FP療法) を行ったが、このうち31例にはインターフェロン α を加え、3者治療 (FPI) とした。FP療法、FPI療法での奏効率は57.1%、19.4%で、有意差はなかったがFP療法の方が高率であり、インターフェロンを加える3者療法は奏効率・生存率にベネフィットはなかった。

Nagamatsuら¹⁰⁰⁾は、低用量FP療法で、リピオドールをエマルジョン化して用いることの意義を論じた。通常の5-FU+シスプラチン持続動注療法で、シスプラチンをリピオドールとエマルジョンにして投与した51例では、CRが10例、PRが34例に得られ、奏効率が86.3%に達した。リピオドールを使用した低用量FP療法は、切除不能・門脈浸潤合併肝癌の有力な治療法であるとしている。

Hirookaら¹⁰¹⁾は、門脈浸潤を伴う進行肝癌に対して、動注化学療法 (HAI) を行う前に減量治療としてラジオ波焼灼療法を行うことの意味をhistorical controlを用いたretrospective研究で行った。RFA後にHAIを行った20例では30%にCR、55%にPRが得られたが、通常のHAIのみの群ではCRは0%、PRが33.3%と低かった。2年生存率はそれぞれ78.8%、16.9%で ($p < 0.0001$)、HAI前RFA治療の意義が大きかったとしている。

D. 肝癌に対する分子標的治療薬

1. ソラフェニブ (Sorafenib: ネクサバルTM)

Llovetら¹⁰²⁾は、多国籍多施設の無作為化比較試験 (SHARP study) で、進行肝癌に対する分

子標的薬ソラフェニブの有効性を報告した。肝切除・局所治療・TACE非適応の602例の二重盲検試験で、ソラフェニブ400mgを1日2回投与群と無投与群に割り付けて生存期間をみたところ、無治療群の50%生存期間は7.9カ月に対してソラフェニブ群では10.7カ月であり、リスク比0.69 ($p<0.001$) で有意に生存期間延長がみられた。画像診断的な腫瘍進展までの期間(中央値)は、無治療群2.8カ月に対してソラフェニブ群5.5カ月と有意に ($p<0.001$) 腫瘍増殖抑制効果がみられたとしている。副作用は下痢・手足皮膚反応・低リン血症などがみられたが、耐えられる範囲であり、総合的にはこれら進行肝癌症例での第一選択治療とした。

SHARP Studyは、主として欧米人に対して行われた臨床試験で、C型肝炎感染例が多く、やや高齢者が多い背景であった。これに対し、同様な基準で進行肝癌を対象として、アジア人症例に対してソラフェニブの第III相無作為化比較試験が行われた¹⁰³⁾。B型肝炎・若年者が多く、またSHARP studyよりもさらに進行した症例が多い背景であったが、ソラフェニブは全生存期間を4.2月から6.5カ月に延長し、死亡ハザードを0.68に低下させた。また腫瘍進展までの期間を1.4月から2.8カ月に延長し、そのハザード比0.57も含め、治療効果のインパクトはSHARP studyとほぼ同じものとなった。2010年にはこれら無作為化比較試験を含めたメタアナリシス¹⁰⁴⁾が行われ、ソラフェニブ治療は、ソラフェニブを使用しない化学療法や無治療対象群より生存期間を有意に延ばすと報告されている。

早々とソラフェニブ治療の適応拡大に関する論文が出始めている。ソラフェニブの治療は、肝機能の良い肝癌進行例が対象であるが、Wörnsら¹⁰⁵⁾はChild Bの15例、Child Cの4例に使用した経験を示し、Grade3/4の肝障害が頻発(23%)するが注意深い観察を行えば使用可能であると報

告している。韓国のKimら¹⁰⁶⁾は、5-FU+シスプラチンによる化学療法無効の肝癌24例にソラフェニブを使用した。抗腫瘍効果では、奏効例はみられなかったがSDが14例(58.3%)にみられたとして、「ある程度の効果」を示した。ヨーロッパからはドキソルビシン併用ソラフェニブ療法の第I相試験¹⁰⁷⁾が16例で行われ、病変制御率69%と、ドキソルビシン単独療法よりも勝っていたと報告している。さらに、TACEにソラフェニブを併用する第III相多施設無作為化比較試験が予定されているという論文¹⁰⁸⁾も公開された。ソラフェニブの治療効果を向上させる目的で、テガフルメトロン併用治療を併用することの意義¹⁰⁹⁾も第II相臨床試験の結果として報告された。

高価で副作用が少ない薬剤であり、治療効果予測や効果判定法に関する見解もでてきている。Vincenziら¹¹⁰⁾は、早期に皮膚副作用が出現するとソラフェニブの治療効果予測ができると報告した。日本人よりも皮膚副作用の出にくい欧米人での検討ではあるが、Grade 1以上の皮膚障害であった29例では腫瘍制御率は48.3%であったのに対し、副作用のなかった例では19.4%と有意に低かった。また、Time-to-progressionも8.1カ月 vs 4.0カ月と有意差が認められた。Yauら¹¹¹⁾はアジア人51例での第II相試験での検討を行い、B型肝炎が背景の肝癌でも同様な効果を示すが、肺転移症例では効果不良であるとした。治療効果判定の問題では、Maksimovicら¹¹²⁾は、ソラフェニブにより肝癌の血流が低下し壊死になる一方、出血も頻繁に起こるため、画像診断・機能診断には注意を要すると述べている。これら出血所見はたいてい壊死所見よりも早く起こるとい

2. その他の分子標的治療薬

肝細胞癌に対する新規の分子標的薬は、開発段階で第I相試験以後のものがすでに30種類以上あり、続々と市場に現れる可能性がある。

治療効果と副作用の問題から、肝細胞癌に対してのスニチニブ（スーテント™）は開発が中止となったが、スイスのKoeberleら¹¹³⁾は、進行肝癌症例における多施設第II相試験の結果を報告している。45例エントリーし、エンドポイントである12週間後の無進行生存率は33%と、「ある程度の効果」は得られたとまとめた。ラパチニブ（タイケルブ™）の第II相試験が進行肝癌26例で行われた¹¹⁴⁾。EGFRとHER2/NEUの阻害剤であるラパチニブでは、奏効例はなく、3カ月以上のSDが23%にみられたのみで、病変非進行期間は1.9カ月と、やや劣る結果であった。

米国のThomasら¹¹⁵⁾は、進行肝癌に対してベバシズマブ（アバスチン™）とエルロチニブ（タルセバ™）の併用投与を行う第II相試験の結果を報告した。16週時点での生存と病変非進行生存をエンドポイントとして、40症例の治療が行われた。奏効率（PR例）が25%、16週での病変非進行生存は62.5%、生存期間中央値は68週と極めて良好であったが、Grade 3以上の副作用は多く、強い倦怠感20%、高血圧15%、下痢10%、トランスアミナーゼ上昇10%、消化管出血12.5%、創感染5%、血小板減少2.5%のほか、蛋白尿・高ビリルビン血症・背部痛・高カリウム血症・食欲低下が各1例にみられた。肝癌に対する分子標的薬としてはかつてない効果を示しているが、副作用が忍容範囲かどうかの問題と考えられる。台湾のHsuら¹¹⁶⁾は、ベバシズマブ（アバスチン™）とカペシタビン併用を第一選択とする進行肝癌治療の成績を発表した。45症例に治療が行われ、9%に奏効が得られ、52%に病変制御が可能であった。病変非進行生存の中央値2.9カ月、全生存期間の中央値が5.9カ月と「ほどほどの」結果であった。

Pinterら¹¹⁷⁾は、進行肝癌にサリドマイドを投与する第I相・第II相試験の結果を報告した。28例が登録され、2例がSDとなったが、他の26例

はPDであった。また、全生存期間の中央値は5.1カ月と、治療効果は不良であった。

文献

- 1) Tanaka K, Shimada H, Matsumoto C, et al. Anatomic versus limited nonanatomic resection for solitary hepatocellular carcinoma. *Surgery*. 2008; 143: 607-15.
- 2) Eguchi S, Kanematsu T, Arai S, et al. Liver Cancer Study Group of Japan. Comparison of the outcomes between an anatomical subsegmentectomy and a non-anatomical minor hepatectomy for single hepatocellular carcinomas based on a Japanese nationwide survey. *Surgery*. 2008; 143: 469-75.
- 3) Kobayashi A, Miyagawa S, Miwa S, et al. Prognostic impact of anatomical resection on early and late intrahepatic recurrence in patients with hepatocellular carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*. 2008; 15: 515-21.
- 4) Nanashima A, Sumida Y, Abo T, et al. Comparison of survival between anatomic and non-anatomic liver resection in patients with hepatocellular carcinoma: significance of surgical margin in non-anatomic resection. *Acta Chir Belg*. 2008; 108: 532-7.
- 5) Shimada K, Sakamoto Y, Esaki M, et al. Role of the width of the surgical margin in a hepatectomy for small hepatocellular carcinomas eligible for percutaneous local ablative therapy. *Am J Surg*. 2008; 195: 775-81.
- 6) Liu P, Yang JM, Niu WY, et al. Prognostic factors in the surgical treatment of caudate lobe hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol*. 2010; 16: 1123-8.
- 7) Gotoh K, Yamada T, Ishikawa O, et al. A novel image-guided surgery of hepatocellular carcinoma by indocyanine green fluorescence imaging navigation. *J Surg Oncol*. 2009; 100: 75-9.
- 8) Zhou WP, Lai EC, Li AJ, et al. A prospective, randomized, controlled trial of preoperative transarterial chemoembolization for resectable large hepatocellular carcinoma. *Ann Surg*. 2009; 249: 195-202.
- 9) Itoh S, Morita K, Ueda S, et al. Long-term results of hepatic resection combined with intraopera-

- tive local ablation therapy for patients with multinodular hepatocellular carcinomas. *Ann Surg Oncol.* 2009; 16: 3299-307.
- 10) Cheung TT, Ng KK, Chok KS, et al. Combined resection and radiofrequency ablation for multifocal hepatocellular carcinoma: prognosis and outcomes. *World J Gastroenterol.* 2010; 16: 3056-62.
 - 11) Lau WY, Lai EC, Leung TW, et al. Adjuvant intra-arterial iodine-131-labeled lipiodol for resectable hepatocellular carcinoma: a prospective randomized trial-update on 5-year and 10-year survival. *Ann Surg.* 2008; 247: 43-8.
 - 12) Ng KM, Niu R, Yan TD, et al. Adjuvant lipiodol I-131 after curative resection/ablation of hepatocellular carcinoma. *HPB (Oxford).* 2008; 10: 388-95.
 - 13) Xia Y, Qiu Y, Li J, et al. Adjuvant therapy with capecitabine postpones recurrence of hepatocellular carcinoma after curative resection: A randomized controlled trial. *Ann Surg Oncol.* 2010 Jul 3 [Epub ahead of print].
 - 14) Imura S, Ikemoto T, Morine Y, et al. Effect of a new adjuvant systemic interferon alpha, 5-fluorouracil and cisplatin on advanced hepatocellular carcinoma with macroscopic portal invasion. *Hepatogastroenterology.* 2008; 55: 615-20.
 - 15) Hui D, Qiang L, Jian W, et al. A randomized, controlled trial of postoperative adjuvant cytokine-induced killer cells immunotherapy after radical resection of hepatocellular carcinoma. *Dig Liver Dis.* 2009; 41: 36-41.
 - 16) Zhang CH, Xu GL, Jia WD, et al. Effects of interferon alpha treatment on recurrence and survival after complete resection or ablation of hepatocellular carcinoma: a meta-analysis of randomized controlled trials. *Int J Cancer.* 2009; 124: 2982-8.
 - 17) Breitenstein S, Dimitroulis D, Petrowsky H, et al. Systematic review and meta-analysis of interferon after curative treatment of hepatocellular carcinoma in patients with viral hepatitis. *Br J Surg.* 2009; 96: 975-81.
 - 18) Singal AK, Freeman Jr DH, Anand BS. Meta-analysis: interferon improves outcomes following ablation or resection of hepatocellular carcinoma. *Aliment Pharmacol Ther.* 2010 Jul 26 [Epub ahead of print].
 - 19) Ruzzenente A, Capra F, Pachera S, et al. Is liver resection justified in advanced hepatocellular carcinoma? Results of an observational study in 464 patients. *J Gastrointest Surg.* 2009; 13: 1313-20.
 - 20) Schiffman SC, Woodall CE, Kooby DA, et al. Factors associated with recurrence and survival following hepatectomy for large hepatocellular carcinoma: a multicenter analysis. *J Surg Oncol.* 2010; 101: 105-10.
 - 21) Ng KM, Yan TD, Black D, et al. Prognostic determinants for survival after resection/ablation of a large hepatocellular carcinoma. *HPB (Oxford).* 2009; 11: 311-20.
 - 22) Shinkawa H, Uenishi T, Takemura S, et al. Risk factors for postoperative recurrence of non-B non-C hepatocellular carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2010; 17: 291-5.
 - 23) Shiba H, Ishida Y, Wakiyama S, et al. Negative impact of blood transfusion on recurrence and prognosis of hepatocellular carcinoma after hepatic resection. *J Gastrointest Surg.* 2009; 13: 1636-42.
 - 24) Fujiwara Y, Shiba H, Furukawa K, et al. Perioperative change in white blood cell count predicts outcome of hepatic resection for hepatocellular carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2010 May 7 [Epub ahead of print].
 - 25) Furihata T, Sawada T, Kita J, et al. Serum alpha-fetoprotein level per tumor volume reflects prognosis in patients with hepatocellular carcinoma after curative hepatectomy. *Hepatogastroenterology.* 2008; 55: 1705-9.
 - 26) Wang DD, Zhao YM, Wang L, et al. Preoperative serum retinol-binding protein 4 is associated with the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma after curative resection. *J Cancer Res Clin Oncol.* 2010 Jun 15 [Epub ahead of print].
 - 27) Kikuchi I, Uchinami H, Nanjo H, et al. Clinical and prognostic significance of urinary trypsin inhibitor in patients with hepatocellular carcinoma after hepatectomy. *Ann Surg Oncol.* 2009; 16: 2805-17.
 - 28) Ryu SH, Chung YH, Lee H, et al. Metastatic tumor antigen I is closely associated with frequent postoperative recurrence and poor survival in

- patients with hepatocellular carcinoma. *Hepatology*. 2008; 47: 929-36.
- 29) Ding T, Xu J, Wang F, et al. High tumor-infiltrating macrophage density predicts poor prognosis in patients with primary hepatocellular carcinoma after resection. *Hum Pathol*. 2009; 40: 381-9.
 - 30) Li YW, Qiu SJ, Fan J, et al. Tumor-infiltrating macrophages can predict favorable prognosis in hepatocellular carcinoma after resection. *J Cancer Res Clin Oncol*. 2009; 135: 439-49.
 - 31) Huang H, Zhang XF, Zhou HJ, et al. Expression and prognostic significance of osteopontin and caspase-3 in hepatocellular carcinoma patients after curative resection. *Cancer Sci*. 2010; 101: 1314-9.
 - 32) Chen RX, Xia YH, Cui JF, et al. Osteopontin, a single marker for predicting the prognosis of patients with tumor-node-metastasis stage I hepatocellular carcinoma after surgical resection. *J Gastroenterol Hepatol*. 2010; 25: 1435-42.
 - 33) Yang GH, Fan J, Xu Y, et al. Osteopontin combined with CD44, a novel prognostic biomarker for patients with hepatocellular carcinoma undergoing curative resection. *Oncologist*. 2008; 13: 1155-65.
 - 34) Schmitz KJ, Wohlschlaeger J, Lang H, et al. Cyclo-oxygenase-2 overexpression is a feature of early and well-differentiated hepatocellular carcinoma with a favourable prognosis. *J Clin Pathol*. 2009; 62: 690-3.
 - 35) He YF, Jin J, Wei W, et al. Overexpression of cyclooxygenase-2 in noncancerous liver tissue increases the postoperative recurrence of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis B virus-related cirrhosis. *Can J Gastroenterol*. 2010; 24: 435-40.
 - 36) Shi YH, Ding WX, Zhou J, et al. Expression of X-linked inhibitor-of-apoptosis protein in hepatocellular carcinoma promotes metastasis and tumor recurrence. *Hepatology*. 2008; 48: 497-507.
 - 37) Tanaka S, Arii S, Yasen M, et al. Aurora kinase B is a predictive factor for the aggressive recurrence of hepatocellular carcinoma after curative hepatectomy. *Br J Surg*. 2008; 95: 611-9.
 - 38) Budhu A, Jia HL, Forgues M, et al. Identification of metastasis-related microRNAs in hepatocellular carcinoma. *Hepatology*. 2008; 47: 897-907.
 - 39) Lai MW, Huang SF, Lin SM, et al. Expression of the HCRP1 mRNA in HCC as an independent predictor of disease-free survival after surgical resection. *Hepatol Res*. 2009; 39: 164-76.
 - 40) Hu J, Xu Y, Shen ZZ, et al. High expressions of vascular endothelial growth factor and platelet-derived endothelial cell growth factor predict poor prognosis in alpha-fetoprotein-negative hepatocellular carcinoma patients after curative resection. *J Cancer Res Clin Oncol*. 2009; 135: 1359-67.
 - 41) Lee HH, Uen YH, Tian YF, et al. Wnt-1 protein as a prognostic biomarker for hepatitis B-related and hepatitis C-related hepatocellular carcinoma after surgery. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 2009; 18: 1562-9.
 - 42) Jia JB, Wang WQ, Sun HC, et al. High expression of macrophage colony-stimulating factor-1 receptor in peritumoral liver tissue is associated with poor outcome in hepatocellular carcinoma after curative resection. *Oncologist*. 2010; 15: 732-43.
 - 43) Wang K, Liu J, Yan ZL, et al. Overexpression of aspartyl-(asparaginyl)-beta-hydroxylase in hepatocellular carcinoma is associated with worse surgical outcome. *Hepatology*. 2010; 52: 164-73.
 - 44) Yang XR, Xu Y, Yu B, et al. High expression levels of putative hepatic stem/progenitor cell biomarkers related to tumour angiogenesis and poor prognosis of hepatocellular carcinoma. *Gut*. 2010; 59: 953-62.
 - 45) Chen MS, Li JQ, Zheng Y, et al. A prospective randomized trial comparing percutaneous local ablative therapy and partial hepatectomy for small hepatocellular carcinoma. *Ann Surg*. 2006; 243: 321-8.
 - 46) Guglielmi A, Ruzzenente A, Valdegamberi A, et al. Radiofrequency ablation versus surgical resection for the treatment of hepatocellular carcinoma in cirrhosis. *J Gastrointest Surg*. 2008; 12: 192-8.
 - 47) Hiraoka A, Horiike N, Yamashita Y. Efficacy of radiofrequency ablation therapy compared to surgical resection in 164 patients in Japan with single hepatocellular carcinoma smaller than 3 cm, along with report of complications. *Hepato-gastroenterology*. 2008; 55: 2171-4.
 - 48) Cho YK, Kim JK, Kim WT, et al. Hepatic resec-

- tion versus radiofrequency ablation for very early stage hepatocellular carcinoma: a Markov model analysis. *Hepatology*. 2010; 51: 1284-90.
- 49) Portolani N, Baiocchi GL, Coniglio A, et al. Sequential multidisciplinary treatment of hepatocellular carcinoma: the role of surgery as rescue therapy for failure of percutaneous ablation therapies. *J Surg Oncol*. 2009; 100: 580-4.
- 50) Abu-Hilal M, Primrose JN, Casaril A, et al. Surgical resection versus radiofrequency ablation in the treatment of small unifocal hepatocellular carcinoma. *J Gastrointest Surg*. 2008; 12: 1521-6.
- 51) Hasegawa K, Makuuchi M, Takayama T, et al. Surgical resection vs. percutaneous ablation for hepatocellular carcinoma: a preliminary report of the Japanese nationwide survey. *J Hepatol*. 2008; 49: 589-94.
- 52) Molinari M, Helton S. Hepatic resection versus radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma in cirrhotic individuals not candidates for liver transplantation: a Markov model decision analysis. *Am J Surg*. 2009; 198: 396-406.
- 53) Kim H, Rhim H, Choi D, et al. Recurrence and treatment pattern in long-term survivors with hepatocellular carcinoma: a comparison between radiofrequency ablation and surgery as a first-line treatment. *World J Surg*. 2010; 34: 1881-6.
- 54) Ueno S, Sakoda M, Kubo F, et al. Surgical resection versus radiofrequency ablation for small hepatocellular carcinomas within the Milan criteria. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*. 2009; 16: 359-66.
- 55) Liang HH, Chen MS, Peng ZW, et al. Percutaneous radiofrequency ablation versus repeat hepatectomy for recurrent hepatocellular carcinoma: a retrospective study. *Ann Surg Oncol*. 2008; 15: 3484-93.
- 56) Zhou Y, Zhao Y, Li B, et al. Meta-analysis of radiofrequency ablation versus hepatic resection for small hepatocellular carcinoma. *BMC Gastroenterol*. 2010; 10: 78.
- 57) Seror O, N'Kontchou G, Ibraheem M, et al. Large (>or=5.0-cm) HCCs: multipolar RF ablation with three internally cooled bipolar electrodes—initial experience in 26 patients. *Radiology*. 2008; 248: 288-96.
- 58) Kargozaran H, Wildendorf S, Khatri VP. Radiofrequency-assisted hepatectomy using bipolar inline multichannel radiofrequency device (ILMRD): report of initial clinical experience. *Hepatogastroenterology*. 2009; 56: 1496-500.
- 59) Meijerink MR, van den Tol P, van Tilborg AA, et al. Radiofrequency ablation of large size liver tumours using novel plan-parallel expandable bipolar electrodes: Initial clinical experience. *Eur J Radiol*. 2009 Jul 17 [Epub ahead of print].
- 60) Eisele RM, Neuhaus P, Schumacher G. Radiofrequency ablation of liver tumors using a novel bipolar device. *J Laparoendosc Adv Surg Tech A*. 2008; 18: 857-63.
- 61) Laspas F, Sotiropoulou E, Mylona S, et al. Computed tomography-guided radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma: treatment efficacy and complications. *J Gastrointest Liver Dis*. 2009; 18: 323-8.
- 62) Park BJ, Byun JH, Jin YH, et al. CT-guided radiofrequency ablation for hepatocellular carcinomas that were undetectable at US: therapeutic effectiveness and safety. *J Vasc Interv Radiol*. 2009; 20: 490-9.
- 63) Kato T, Yamagami T, Hirota T, et al. Transpulmonary radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma under real-time computed tomography-fluoroscopic guidance. *Hepatogastroenterology*. 2008; 55: 1450-3.
- 64) Livraghi T, Meloni F, Di Stasi M, et al. Sustained complete response and complications rates after radiofrequency ablation of very early hepatocellular carcinoma in cirrhosis: Is resection still the treatment of choice? *Hepatology*. 2008; 47: 82-9.
- 65) N'Kontchou G, Mahamoudi A, Aout M, et al. Radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma: long-term results and prognostic factors in 235 Western patients with cirrhosis. *Hepatology*. 2009; 50: 1475-83.
- 66) Hiraoka A, Michitaka K, Horiike N, et al. Radiofrequency ablation therapy for hepatocellular carcinoma in elderly patients. *J Gastroenterol Hepatol*. 2010; 25: 403-7.
- 67) Cha J, Rhim H, Lee JY, et al. Percutaneous radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma: assessment of safety in patients with ascites. *AJR Am J Roentgenol*. 2009; 193: W424-9.

- 68) Kashima M, Yamakado K, Takaki H, et al. Radiofrequency ablation for the treatment of bone metastases from hepatocellular carcinoma. *AJR Am J Roentgenol.* 2010; 194: 536-41.
- 69) Yamakado K, Anai H, Takaki H, et al. Adrenal metastasis from hepatocellular carcinoma: radiofrequency ablation combined with adrenal arterial chemoembolization in six patients. *AJR Am J Roentgenol.* 2009; 192: W300-5.
- 70) Kuroda H, Kasai K, Kakisaka K, et al. Changes in liver function parameters after percutaneous radiofrequency ablation therapy in patients with hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res.* 2010; 40: 550-4.
- 71) Hirakawa M, Ikeda K, Kawamura Y, et al. Lipiodol and dye at the site of ablation decreases during RFA. *Intervirology.* 2008; 51: 362-8.
- 72) Fernandes ML, Lin CC, Lin CJ, et al. Prospective study of a 'popping' sound during percutaneous radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma. *J Vasc Interv Radiol.* 2010; 21: 237-44.
- 73) Latteri F, Sandonato L, Di Marco V, et al. Seeding after radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma in patients with cirrhosis: a prospective study. *Dig Liver Dis.* 2008; 40: 684-9.
- 74) Imamura J, Tateishi R, Shiina S, et al. Neoplastic seeding after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma. *Am J Gastroenterol.* 2008; 103: 3057-62.
- 75) Park Y, Choi D, Lim HK, et al. Growth rate of new hepatocellular carcinoma after percutaneous radiofrequency ablation: evaluation with multiphase CT. *Am J Roentgenol.* 2008; 191: 215-20.
- 76) Rempp H, Clasen S, Boss A, et al. Prediction of cell necrosis with sequential temperature mapping after radiofrequency ablation. *J Magn Reson Imaging.* 2009; 30: 631-9.
- 77) Imai K, Beppu T, Nakayama Y, et al. Preoperative prediction of poorly differentiated components in small-sized hepatocellular carcinoma for safe local ablation therapy. *J Surg Oncol.* 2009; 100: 121-6.
- 78) Lencioni R, Crocetti L, Petruzzi P, et al. Doxorubicin-eluting bead-enhanced radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma: A pilot clinical study. *J Hepatol.* 2008; 49: 217-22.
- 79) Yamakado K, Nakatsuka A, Takaki H, et al. Early-stage hepatocellular carcinoma: radiofrequency ablation combined with chemoembolization versus hepatectomy. *Radiology.* 2008; 247: 260-6.
- 80) Kagawa T, Koizumi J, Kojima S, et al. Transcatheter arterial chemoembolization plus radiofrequency ablation therapy for early stage hepatocellular carcinoma: comparison with surgical resection. *Cancer.* 2010; 116: 3638-44.
- 81) Takaki H, Yamakado K, Uraki J, et al. Radiofrequency ablation combined with chemoembolization for the treatment of hepatocellular carcinomas larger than 5 cm. *J Vasc Interv Radiol.* 2009; 20: 217-24.
- 82) Peng ZW, Chen MS, Liang HH, et al. A case-control study comparing percutaneous radiofrequency ablation alone or combined with transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma. *Eur J Surg Oncol.* 2010; 36: 257-63.
- 83) Cheng BQ, Jia CQ, Liu CT, et al. Chemoembolization combined with radiofrequency ablation for patients with hepatocellular carcinoma larger than 3 cm: a randomized controlled trial. *JAMA.* 2008; 299: 1669-77.
- 84) Shibata T, Isoda H, Hirokawa Y, et al. Small hepatocellular carcinoma: is radiofrequency ablation combined with transcatheter arterial chemoembolization more effective than radiofrequency ablation alone for treatment? *Radiology.* 2009; 252: 905-13.
- 85) Morimoto M, Numata K, Kondou M, et al. Mid-term outcomes in patients with intermediate-sized hepatocellular carcinoma: a randomized controlled trial for determining the efficacy of radiofrequency ablation combined with transcatheter arterial chemoembolization. *Cancer.* 2010 Jul 29 [Epub ahead of print].
- 86) Kurokohchi K, Watanabe S, Yoneyama H, et al. A combination therapy of ethanol injection and radiofrequency ablation under general anesthesia for the treatment of hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol.* 2008; 14: 2037-43.
- 87) Wong SN, Lin CJ, Lin CC, et al. Combined percutaneous radiofrequency ablation and ethanol injection for hepatocellular carcinoma in high-risk locations. *AJR Am J Roentgenol.* 2008; 190: W187-95.

- 88) Brunello F, Veltri A, Carucci P, et al. Radiofrequency ablation versus ethanol injection for early hepatocellular carcinoma: A randomized controlled trial. *Scand J Gastroenterol.* 2008; 43: 727-35.
- 89) Wakui N, Iida K, Ikehara T, et al. Recurrence incidence of small HCC in cirrhosis patients by ablation versus injection. *Hepatogastroenterology.* 2010; 57: 195-201.
- 90) Dhanasekaran R, Khanna V, Kooby DA, et al. The effectiveness of locoregional therapies versus supportive care in maintaining survival within the Milan criteria in patients with hepatocellular carcinoma. *J Vasc Interv Radiol.* 2010; 21: 1197-204.
- 91) Lencioni R, Crocetti L, Petruzzi P, et al. Doxorubicin-eluting bead-enhanced radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma: a pilot clinical study. *J Hepatol.* 2008; 49: 217-22.
- 92) Lammer J, Malagari K, Vogl T, et al. Prospective randomized study of doxorubicin-eluting-bead embolization in the treatment of hepatocellular carcinoma: results of the PRECISION V study. *Cardiovasc Intervent Radiol.* 2010; 33: 41-52.
- 93) Sadick M, Haas S, Loehr M, et al. Application of DC beads in hepatocellular carcinoma: clinical and radiological results of a drug delivery device for transcatheter superselective arterial embolization. *Onkologie.* 2010; 33: 31-7.
- 94) Dhanasekaran R, Kooby DA, Staley CA, et al. Comparison of conventional transarterial chemoembolization (TACE) and chemoembolization with doxorubicin drug eluting beads (DEB) for unresectable hepatocellular carcinoma (HCC). *J Surg Oncol.* 2010; 101: 476-80.
- 95) Nicolini A, Martinetti L, Crespi S, et al. Transarterial chemoembolization with epirubicin-eluting beads versus transarterial embolization before liver transplantation for hepatocellular carcinoma. *J Vasc Interv Radiol.* 2010; 21: 327-32.
- 96) Poggi G, Quaretti P, Minoia C, et al. Transhepatic arterial chemoembolization with oxaliplatin-eluting microspheres (OEM-TACE) for unresectable hepatic tumors. *Anticancer Res.* 2008; 28: 3835-42.
- 97) Grosso M, Vignali C, Quaretti P, et al. Transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma with drug-eluting microspheres: preliminary results from an Italian multicentre study. *Cardiovasc Intervent Radiol.* 2008; 31: 1141-9.
- 98) Woo HY, Bae SH, Park JY, et al. A randomized comparative study of high-dose and low-dose hepatic arterial infusion chemotherapy for intractable, advanced hepatocellular carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2010; 65: 373-82.
- 99) Eun JR, Lee HJ, Moon HJ, et al. Hepatic arterial infusion chemotherapy using high-dose 5-fluorouracil and cisplatin with or without interferon-alpha for the treatment of advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis. *Scand J Gastroenterol.* 2009; 44: 1477-86.
- 100) Nagamatsu H, Hiraki M, Mizukami N, et al. Intra-arterial therapy with cisplatin suspension in lipiodol and 5-fluorouracil for hepatocellular carcinoma with portal vein tumour thrombosis. *Aliment Pharmacol Ther.* 2010; 32: 543-50.
- 101) Hirooka M, Koizumi Y, Kisaka Y, et al. Mass reduction by radiofrequency ablation before hepatic arterial infusion chemotherapy improved prognosis for patients with huge hepatocellular carcinoma and portal vein thrombus. *AJR Am J Roentgenol.* 2010; 194: W221-6.
- 102) Llovet JM, Ricci S, Mazzaferro V, et al. ; SHARP Investigators Study Group. Sorafenib in advanced hepatocellular carcinoma. *N Engl J Med.* 2008; 359: 378-90.
- 103) Cheng AL, Kang YK, Chen Z, et al. Efficacy and safety of sorafenib in patients in the Asia-Pacific region with advanced hepatocellular carcinoma: a phase III randomised, double-blind, placebo-controlled trial. *Lancet Oncol.* 2009; 10: 25-34.
- 104) Zhang T, Ding X, Wei D, et al. Sorafenib improves the survival of patients with advanced hepatocellular carcinoma: a meta-analysis of randomized trials. *Anticancer Drugs.* 2010; 21: 326-32.
- 105) Wörns MA, Weinmann A, Pflingst K, et al. Safety and efficacy of sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma in consideration of concomitant stage of liver cirrhosis. *J Clin Gastroenterol.* 2009; 43: 489-95.
- 106) Kim JW, Lee JO, Han SW, et al. Clinical outcomes of sorafenib treatment in patients with metastatic hepatocellular carcinoma who had been previ-

- ously treated with fluoropyrimidine plus platinum-based chemotherapy. *Am J Clin Oncol*. 2010 Mar 19 [Epub ahead of print].
- 107) Richly H, Schultheis B, Adamietz IA, et al. Combination of sorafenib and doxorubicin in patients with advanced hepatocellular carcinoma: results from a phase I extension trial. *Eur J Cancer*. 2009; 45: 579-87.
- 108) Hoffmann K, Glimm H, Radeleff B, et al. Prospective, randomized, double-blind, multi-center, Phase III clinical study on transarterial chemoembolization (TACE) combined with sorafenib versus TACE plus placebo in patients with hepatocellular cancer before liver transplantation -HeiLivCa [ISRCTN24081794]. *BMC Cancer*. 2008; 8: 349.
- 109) Hsu CH, Shen YC, Lin ZZ, et al. Phase II study of combining sorafenib with metronomic tegafur/uracil for advanced hepatocellular carcinoma. *J Hepatol*. 2010; 53: 126-31.
- 110) Vincenzi B, Santini D, Russo A, et al. Early skin toxicity as a predictive factor for tumor control in hepatocellular carcinoma patients treated with sorafenib. *Oncologist*. 2010; 15: 85-92.
- 111) Yau T, Chan P, Ng KK, et al. Phase 2 open-label study of single-agent sorafenib in treating advanced hepatocellular carcinoma in a hepatitis B-endemic Asian population: presence of lung metastasis predicts poor response. *Cancer*. 2009; 115: 428-36.
- 112) Maksimovic O, Schraml C, Hartmann JT, et al. Evaluation of response in malignant tumors treated with the multitargeted tyrosine kinase inhibitor sorafenib: a multitechnique imaging assessment. *AJR Am J Roentgenol*. 2010; 194: 5-14.
- 113) Koeberle D, Montemurro M, Samaras P, et al. Continuous sunitinib treatment in patients with advanced hepatocellular carcinoma: a Swiss Group for Clinical Cancer Research (SAKK) and Swiss Association for the Study of the Liver (SASL) multicenter phase II trial (SAKK 77/06). *Oncologist*. 2010; 15: 285-92.
- 114) Bekaii-Saab T, Markowitz J, Prescott N, et al. A multi-institutional phase II study of the efficacy and tolerability of lapatinib in patients with advanced hepatocellular carcinomas. *Clin Cancer Res*. 2009; 15: 5895-901.
- 115) Thomas MB, Morris JS, Chadha R, et al. Phase II trial of the combination of bevacizumab and erlotinib in patients who have advanced hepatocellular carcinoma. *J Clin Oncol*. 2009; 27: 843-50.
- 116) Hsu CH, Yang TS, Hsu C, et al. Efficacy and tolerability of bevacizumab plus capecitabine as first-line therapy in patients with advanced hepatocellular carcinoma. *Br J Cancer*. 2010; 102: 981-6.
- 117) Pinter M, Wichlas M, Schmid K, et al. Thalidomide in advanced hepatocellular carcinoma as antiangiogenic treatment approach: a phase I/II trial. *Eur J Gastroenterol Hepatol*. 2008; 20: 1012-9.

B. 動脈塞栓術, ほか

29 A-P シャント・側副血行路を有する肝細胞癌に対する TACE

適応

通常の肝細胞癌に対する TACE の適応に準ずる。

禁忌

通常の肝細胞癌に対する TACE の禁忌に準ずるが, 手技中にカテーテルが目的位置まで挿入できない場合には, TACE を断念する。

術前準備

- ①腫瘍の位置から可能性のある肝外側副血行路を予想し(図 1), dynamic CT で起始部を同定しておく。
- ②選択する血管によっては 150 cm 長のマイクロカテーテルが必要となる。
- ③細径のバルーンカテーテルや金属コイルが必要になることがある。

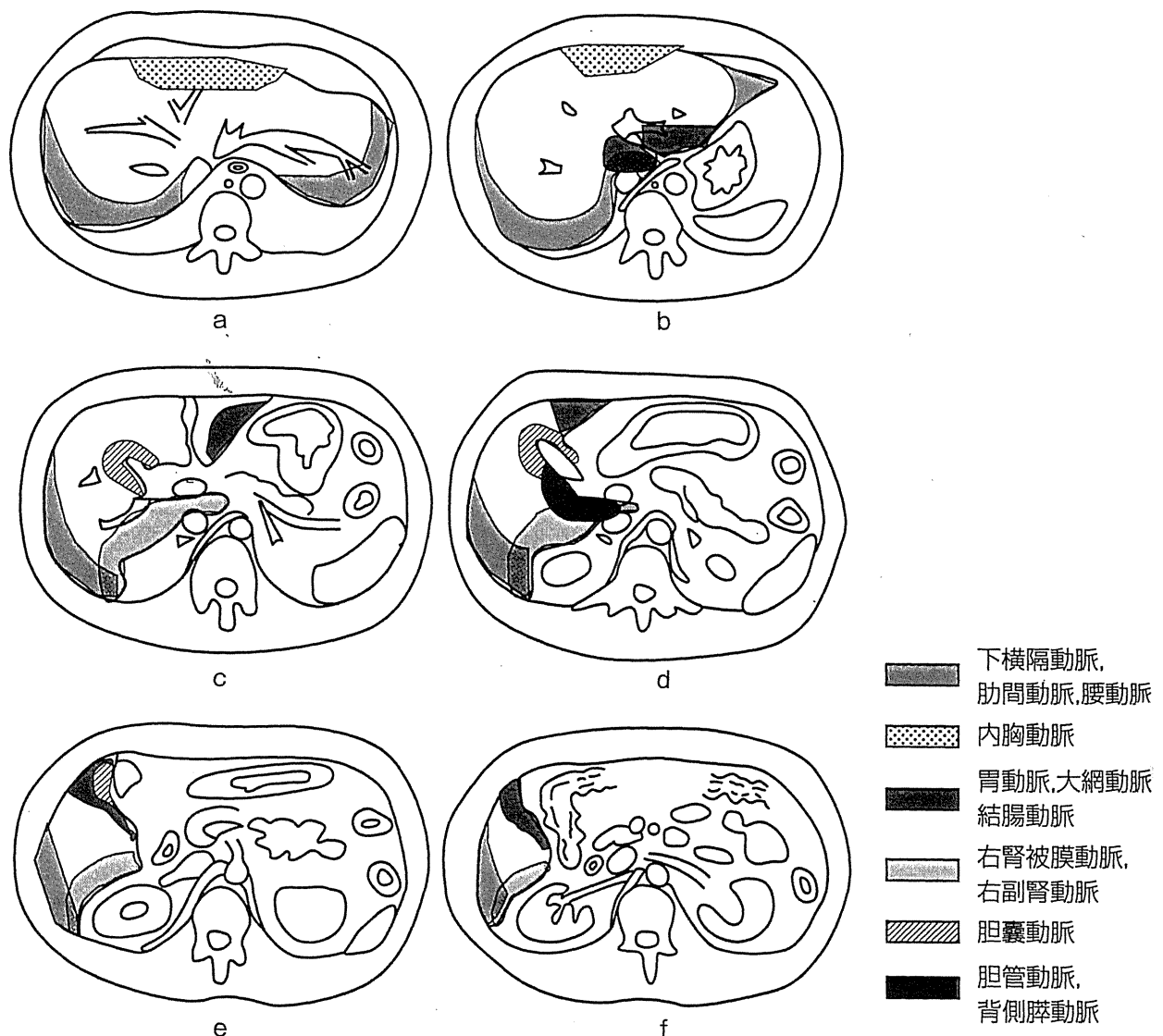


図 1 肝外側副血行路の分布域

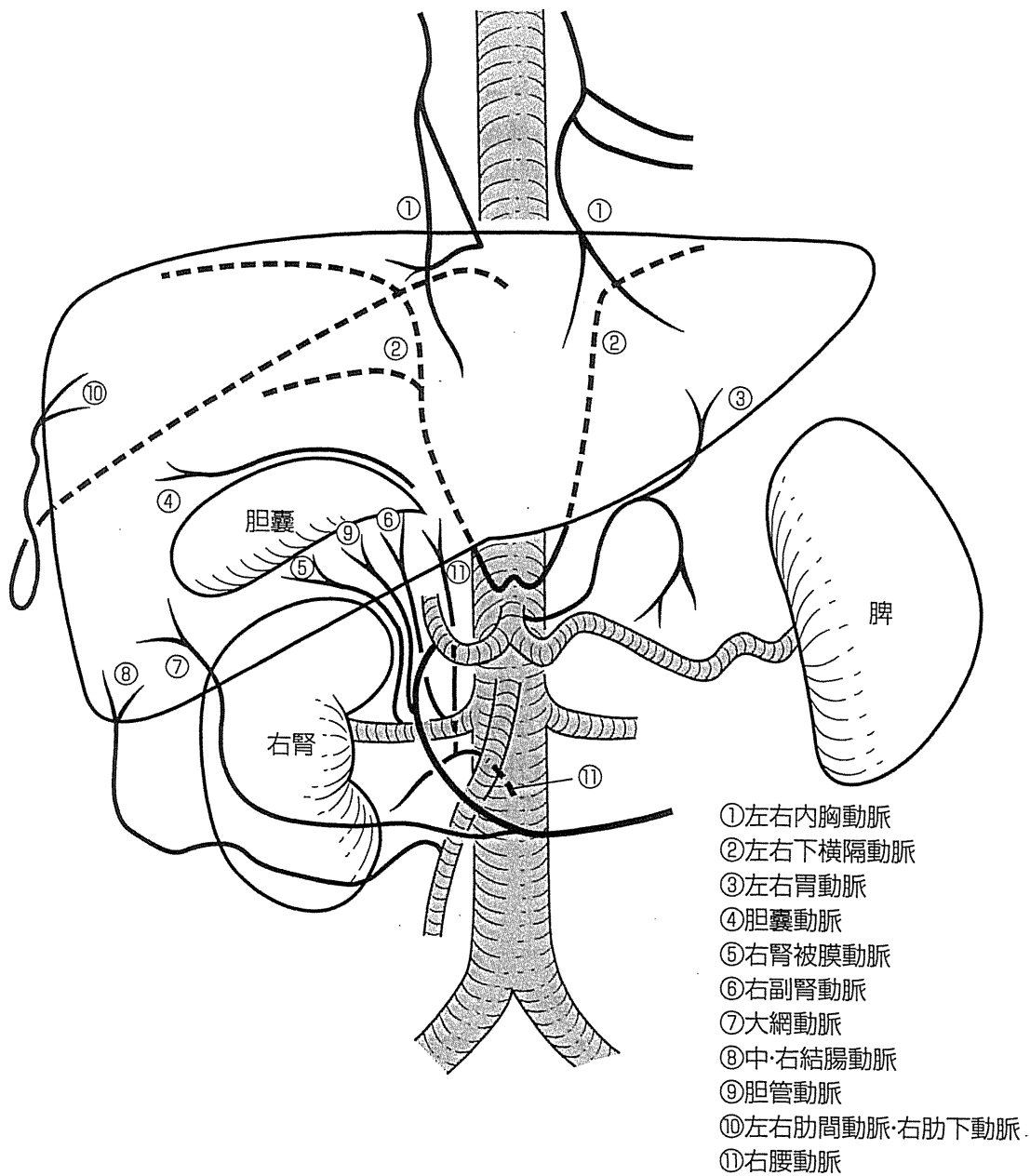


図2 代表的な肝外側副血行路

手技

1 A-Pシャントを有する肝細胞癌に対する TACE

- ① 門脈描出が軽度な場合は、通常のリピオドール TACE を行う。
- ② 門脈描出が高度で、シャントの責任血管が腫瘍の栄養血管と異なる、あるいは主要栄養血管でない場合には、責任血管を金属コイルやゼラチンスポンジで塞栓したのちに、通常のリピオドール TACE を行う。
- ③ 門脈描出が高度で、シャントの責任血管

が腫瘍の主要栄養血管である場合には、抗癌薬(エピルビシンなど)を浸み込ませたゼラチンスポンジで塞栓する。

- ④ ③の場合、バルーンカテーテルで責任血管の血流を停滞させたり、血管収縮薬(エピネフリン)を投与し血流を停滞させた状態で、リピオドール TACE を行う方法もある。

2 肝外側副血行路経由の TACE (図2)

- ① 腫瘍の局在から関与する可能性のある血管を選択し造影を行う。腹腔動脈, 上腸間膜動脈, 腎動脈, 大動脈から分岐する

手技のポイント

- 肝外側副血行路からの腫瘍への供血は、繰り返す TACE により肝動脈が損傷されている例で認められることが多いが、肝外に突出する腫瘍では初回治療時に認められることがある^{1,3)}。また、手術や経皮的局所療法後の癒着も側副血行路の発達を促進する。
- 腹腔動脈の起始部や大動脈から急峻に分岐する下横隔動脈などは、通常の二重管法では選択できないこともあり、親カテーテルに側孔や側溝を作製する方法が有用である^{4,5)}。
- 下横隔動脈の起始部が閉塞している場合は、背側腓動脈、副腎動脈、左胃動脈などの複数の血管から再建されることが多く (retroperitoneal fine network)、そのなかでカテーテル挿入が容易な血管からアプローチする⁶⁾。
- 肝外側副血行路は大切なアプローチルートであり、安易に金属コイルで塞栓しない。
- 内胸動脈、肋間動脈、腰動脈では、筋肉や皮膚を栄養する血管へリピオドール抗癌薬混合液を注入してはならない。肋間動脈から肝に分布する枝は、肋骨肋軟骨移行部で急峻に頭側に向かうため、そこをこえるまでマイクロカテーテルを進める³⁾。また肋間動脈や腰動脈では、Adamkiewicz 動脈の位置を確認するために、マイクロカテーテルでの選択を行う前に、複数本の肋間動脈や腰静脈(少なくとも塞栓する上下の血管)を撮影しておく²⁾。
- 側副血行路間には吻合が豊富に存在するため、手技中は塞栓物質の動態を慎重に観察する⁷⁾。
- 無漿膜野の腫瘍が再発した場合、最初は右下横隔動脈や右腎被膜動脈などから主に栄養されるが、TACE と再発を繰り返すうちに小さな腎被膜動脈、副腎動脈、肋間動脈、腰動脈、背側腓動脈などから栄養されるようになる (肝外側副路のマーチ)⁸⁾。

下横隔動脈、腎被膜動脈、副腎動脈、肋間動脈、腰動脈の選択には主にシェファードフックカテーテルを使用するが、選択できない場合はコブラカテーテルを用いる。内胸動脈はヘッドハンターカテーテルからマイクロカテーテルを進めて選択するが、直接選択する場合はインターナルマンマリーカテーテルが有用である。

- ② DSA で腫瘍濃染が確認されたら、できる限り栄養血管にまでマイクロカテーテルを進める。腫瘍の栄養血管は細いことが多く、2Fr 以下のマイクロカテーテルが有用である。また、内胸動脈でのカテーテル操作はヘパリン化(3,000 単位静注)したのちに行う。
- ③ 栄養血管にカテーテルが挿入できたら TACE を施行するが、リピオドールや抗癌薬の使用量は肝動脈からの使用量の半量程度を目安とする¹⁾。
- ④ 内胸動脈、肋間動脈、腰動脈では、皮膚や筋肉の栄養血管が外せない場合は

TACE を断念し、必要に応じて大きめのゼラチンスポンジのみで塞栓する^{1,2)}。

- ⑤ 胆嚢動脈、消化管の動脈、背側腓動脈では、胆嚢や消化管壁、腓実質の染まりが描出されなくなる位置までカテーテルを進めることができない場合は塞栓を断念する¹⁾。
- ⑥ IVR-CT やコーンビーム CT を使用することで、合併症が軽減する。

成績**① A-P シャントを有する肝細胞癌に対する TACE**

- ① リピオドール TACE が施行できれば、通常の腫瘍の場合とほぼ同等の治療効果が得られる。
- ② ゼラチンスポンジのみで塞栓した場合はやや治療効果は劣るが、再発時には A-P シャントが消失・軽減し、通常のリピオドール TACE が施行可能になることがある。

② 肝外側副血行路経由の TACE

- ① 下横隔動脈 下横隔動脈は、40%は腹腔

動脈, 39%は大動脈, 15%は腎動脈, 4%は左胃動脈, 2%は肝動脈から分岐する⁹⁾。動脈硬化や弓状靱帯の圧排により起始部が閉塞した際には, 種々の後腹膜の血管から再建される⁶⁾。右下横隔動脈からは下大静脈を栄養する枝が, 左下横隔動脈からは胃枝が分岐するため注意を要する。筆者らの検討では, 右下横隔動脈からの腫瘍への供血の頻度は, 肝外側副血行路からの供血が認められた全症例の83%, 左下横隔動脈では12%であり, そのうちリピオドール TACE が施行可能であったものはそれぞれ96%, 100%であった¹⁾。

②胆嚢動脈 胆嚢動脈の深在枝は肝動脈右前下区域枝(A5)と吻合し, 胆嚢動脈からもしばしばA5の1枝が分岐する¹⁾。胆嚢床部を主に栄養するが, 肝動脈損傷が著しい場合は, 深部の腫瘍も栄養する。また, 胆嚢床に突出する腫瘍は初回より胆嚢動脈から栄養されることがある。発現頻度は24%で, リピオドール TACE の成功率は70%であった¹⁾。

③腎動脈, 腎被膜動脈, 副腎動脈 腎被膜動脈, 副腎動脈などは複数本存在し, また腎動脈から被膜を貫通する小枝も腫瘍の栄養血管となる⁸⁾。右腎被膜動脈や副腎動脈は, 肋間動脈, 背側腓動脈, 尾状葉枝などと吻合する⁷⁾。発現頻度は19%で, リピオドール TACE の成功率は100%であった¹⁾。

④内胸動脈 内胸動脈の各分枝からの腫瘍への供血頻度は, 横隔枝47%, 筋横隔動脈32%, 上腹壁動脈12%, 前肋間動脈5%, 剣状突起動脈3%, 心膜横隔動脈1%と報告されている¹⁰⁾。右下横隔動脈からの TACE 後の再発病変で関与することが多い。発現頻度は右内胸動脈では8%, 左内胸動脈では1%で, リピオドール TACE の成功率はいずれも100%であった¹⁾。

⑤肋間動脈, 肋下動脈, 腰動脈 下横隔動脈, 内胸動脈, 腎被膜動脈, 腰動脈, 肋間動脈の間には豊富な吻合が存在し⁷⁾, 肋間動脈, 肋下動脈, 腰動脈からの供血は, 下横隔動脈や腎被膜動脈からの TACE 後に顕著化することが多い。腫瘍への供血頻度は $T10 > T9 > T11 > T12 \geq L1 > T8 \geq L2$ の順であり¹⁾, 肋間動脈からの栄養血管は肋骨肋軟骨移行部レベルで急峻に分岐し³⁾, 肋下動脈からの栄養血管は筋枝から分岐, 腰動脈からの栄養血管は背側枝と筋枝の分岐部の近傍から分岐することが多い²⁾。Adamkiewicz 動脈への塞栓物質の流入が危惧される場合, TACE は禁忌である。発現頻度は右肋間・肋下動脈では10%, 腰動脈では2%で, リピオドール TACE の成功率はそれぞれ53%, 91%であった^{1,2)}。

⑥大網動脈, 左右胃動脈, 中・右結腸動脈, 背側腓動脈, 胆管動脈 大網動脈からの供血は, 破裂例や腹膜播種病変を有する例でも認められる。右胃大網動脈から分岐する大網動脈が主に関与するが, 左胃大網動脈からのものも稀に関与する。大網動脈と結腸動脈の間には吻合が存在するため, 塞栓時には注意を要する⁷⁾。胆管動脈は後上腓胃十二指腸動脈から急峻に分岐し, 右肝動脈や胆嚢動脈と吻合する。出現頻度は大網動脈では13%で, ほかはいずれも4%以下で, リピオドール TACE の成功率は大網動脈で74%, それ以外では63~75%であった¹⁾。

術後管理

通常のリピオドール TACE に準ずる。

合併症

①A-Pシャントを有する肝細胞癌に対する TACE

シャントを介して門脈内に多量のリピオドールが流入すれば, 広範な肝実質障害が生じる。

2 肝外側副血行路経由の TACE

- ① 下横隔動脈 胸水, 肺底部無気肺, 横隔膜運動不良, 脳梗塞(下横隔動脈と肺静脈の吻合が存在するとリピオドールが体循環に流入し生じる)
- ② 胆嚢動脈 胆嚢炎・胆嚢梗塞
- ③ 腎動脈, 腎被膜動脈, 副腎動脈 腎梗塞, 膝炎・膝壊死(副腎動脈と背側膝動脈との間には吻合が存在), 副腎壊死は生じにくい。
- ④ 内胸動脈 皮膚炎・皮膚潰瘍・皮膚壊死
- ⑤ 肋間動脈, 肋下動脈, 腰動脈 皮膚炎・皮膚潰瘍・皮膚壊死, 脊髄梗塞
- ⑥ 大網動脈, 左右胃動脈, 中・右結腸動脈, 背側膝動脈, 胆管動脈 腸管虚血・潰瘍・腸管壊死, 膝炎・膝壊死, 胆管梗塞・胆管狭窄, 大網壊死は生じにくい。

文献

- 1) Miyayama S, et al : Extrahepatic blood supply to hepatocellular carcinoma : angiographic demonstration and transcatheter arterial chemoembolization. Cardiovasc Intervent Radiol 29 : 39-48, 2006
- 2) Miyayama S, et al : Hepatocellular carcinoma supplied by the right lumbar artery. Cardiovasc Intervent Radiol 33 : 53-60, 2010
- 3) Kim HC, et al : Recognizing extrahepatic collateral vessels that supply hepatocellular carcinoma to avoid complications of transcatheter arterial chemoembolization. Radiographics 25 : S25-S39, 2005

- 4) Miyayama S, et al : Use of a catheter with a large side hole for selective catheterization of the inferior phrenic artery. JVIR 12 : 497-499, 2001
- 5) Miyayama S, et al : Creation of a cleft in an angiography catheter to facilitate catheterization of branches of the aorta arising at an acute angle. JVIR 19 : 1769-1771, 2008
- 6) Miyayama S, et al : Transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma fed by the reconstructed inferior phrenic artery : anatomical and technical analysis. JVIR 15 : 815-823, 2004
- 7) Miyayama S, et al : Anastomosis between the hepatic artery and the extrahepatic collateral or between extrahepatic collaterals : observation on angiography. J Med Imaging Radiat Oncol 53 : 271-282, 2009
- 8) Miyayama S, et al : The march of extrahepatic collaterals : analysis of blood supply to hepatocellular carcinoma located in the bare area of the liver after chemoembolization. Cardiovasc Intervent Radiol 33 : 513-522, 2010
- 9) Gwon DI, et al : Inferior phrenic artery : anatomy, variations, pathologic conditions, and interventional management. Radiographics 27 : 687-705, 2007
- 10) Kim HC, et al : Internal mammary arteries supplying hepatocellular carcinoma : vascular anatomy at digital subtraction angiography in 97 patients. Radiology 242 : 925-932, 2007

〔宮山士朗〕

Characterization of naturally occurring protease inhibitor-resistance mutations in genotype 1b hepatitis C virus patients

Hiroko Shindo · Shinya Maekawa · Kazuki Komase · Ryota Sueki · Mika Miura · Makoto Kadokura · Kuniaki Shindo · Fumitake Amemiya · Takatoshi Kitamura · Yasuhiro Nakayama · Taisuke Inoue · Minoru Sakamoto · Shun-ichi Okada · Yasuhiro Asahina · Namiki Izumi · Masao Honda · Shuichi Kaneko · Nobuyuki Enomoto

Received: 21 April 2011 / Accepted: 22 July 2011
© Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2011

Abstract

Background and aims Protease inhibitor (PI)-resistant hepatitis C virus (HCV) variants may be present in substantial numbers in PI-untreated patients according to recent reports. However, influence of these viruses in the clinical course of chronic hepatitis C has not been well characterized.

Methods The dominant HCV nonstructural 3 (NS3) amino acid sequences were determined in 261 HCV genotype 1b-infected Japanese patients before pegylated interferon plus ribavirin (PEG-IFN/RBV) therapy, and investigated the patients' clinical characteristics as well as treatment responses including sustained virological response (SVR) rate. HCV-NS3 sequences were also determined in 39 non-SVR patients after completion of the therapy.

Results Four single mutations (T54S, Q80K, I153V, and D168E) known to confer PI resistance were found in 35 of 261 patients (13.4%), and double mutations (I153V plus

T54S/D168E) were found in 6 patients (2.3%). Responses to PEG-IFN/RBV therapy did not differ between patients with and without PI-resistance mutations (mutation group, SVR 48%; wild-type group, SVR 40%; $P = 0.38$). On the other hand, two mutations appeared in two non-SVR patients after PEG-IFN/RBV therapy (I153V and E168D, 5.1%).

Conclusions PI-resistance-associated NS3 mutations exist in a substantial proportion of untreated HCV-1b-infected patients. The impact of these mutations in the treatment of PIs is unclear, but clinicians should pay attention to avoid further development of PI resistance.

Keywords HCV · Protease inhibitor · Naturally occurring viral resistance mutations

Introduction

Hepatitis C virus (HCV) infects more than 170 million persons worldwide and thus represents a global health problem. At least 130 million infected individuals are chronic carriers of HCV and are at significant risk of developing liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma [1]. The current standard treatment with pegylated interferon plus ribavirin (PEG-IFN/RBV) is complicated by frequent adverse reactions, and a sustained virologic response (SVR) can be achieved only in 50% of patients infected with the most prevalent genotype 1 [2]. In Japan, since 70% of patients are infected with intractable genotype 1b HCV, more effective treatments are urgently required.

A promising approach is the development of specifically targeted antiviral therapies for hepatitis C (STAT-C). HCV-specific protease inhibitors (PIs) target an essential step in HCV replication by blocking the nonstructural 3/4A (NS3/4A) protease-dependent cleavage of the HCV polyprotein

Electronic supplementary material The online version of this article (doi:10.1007/s12072-011-9306-7) contains supplementary material, which is available to authorized users.

H. Shindo · S. Maekawa (✉) · K. Komase · R. Sueki · M. Miura · M. Kadokura · K. Shindo · F. Amemiya · T. Kitamura · Y. Nakayama · T. Inoue · M. Sakamoto · S. Okada · N. Enomoto

First Department of Internal Medicine, University of Yamanashi, 1110, Shimokato, Chuo, Yamanashi 409-3898, Japan
e-mail: maekawa@yamanashi.ac.jp

Y. Asahina · N. Izumi
Division of Gastroenterology and Hepatology,
Musashino Red Cross Hospital, Tokyo, Japan

M. Honda · S. Kaneko
Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate
School of Medicine, Kanazawa, Japan

[1]. Among these NS3/4A PIs, telaprevir, boceprevir, SCH446211, danoprevir (ITMN-191), naldaprevir (SCH900 518), and TMC435 are now under clinical trials [1, 3–7]. In PROVE1 and PROVE2 studies [3, 4] undertaken in North America and Europe, the SVR rate was favorable (67 and 69%, respectively) in a triple therapy regimen including telaprevir. In addition, some studies have suggested that shortening of treatment duration may be possible for patients who achieve a rapid virologic response (RVR) [8, 9].

However the sole use of STAT-C drugs, such as PIs, promotes production and selection of drug-resistant variants in patients experiencing viral rebound during treatment [3, 10, 11] as well as in HCV replicon experiments [11, 12]. Therefore, these drugs should be used in combination with the PEG-IFN/RBV to prevent the appearance of drug-resistant variants. However, Kuntzen et al. [13] demonstrated the presence of these drug-resistant variants in high frequencies (8.6–16.2%) by population-based sequencing in patients not treated with the drugs [1, 13]. Gaudieri et al. [14] have suggested that regions of NS3 protease and NS5B polymerase are likely to be under HLA immune pressure and therapeutic selection, and that drug-resistant variants may occur naturally to escape the immune system. These observations seem quite astonishing and troubling, since a substantial number of patients may not respond to the new therapies such as STAT-C drugs.

In the present study, to assess the prevalence of NS3 mutations conferring PI resistance in HCV genotype 1b-infected Japanese patients who had not been previously treated with PIs, as well as to assess the influence of those mutations in response to PEG-IFN/RBV therapy, the dominant HCV-NS3 sequences were determined in 261 HCV-1b patients before starting the PEG-IFN/RBV therapy.

Methods

Patients

Serum samples were acquired from 261 HCV genotype 1b-infected adult Japanese patients before combination therapy with PEG-IFN (PEGINTRON[®], Schering-Plough, Tokyo, Japan) plus RBV (REBETOL[®], Schering-Plough) between 2004 and 2008 at the University of Yamanashi, Musashino Red Cross Hospital and Kanazawa University. The therapy was administered according to the standard PEG-IFN/RBV treatment protocol established for Japanese patients by a hepatitis study group of the Ministry of Health, Labor, and Welfare, Japan. Specifically, the patients were subcutaneously administered PEG-IFN α -2b, 1.5 μ g/kg body weight, once weekly and RBV 600–800 mg daily per os for 48 weeks. These patients were not infected with human immunodeficiency virus (HIV). The study was

approved by the ethics committees of all participating universities and the hospital, and the protocol conformed to the ethical guidelines of the 1975 Declaration of Helsinki as reflected in a priori approval by the Institutional Review Board at Massachusetts General Hospital. Written informed consent was obtained from each study participant.

Amplification and sequencing of full-length HCV genomes

Viral loads were determined using the Amplicor HCV RNA kit, version 2.0 (Roche Diagnostics, Tokyo, Japan) or the Cobas TaqMan test (Roche Diagnostics). HCV RNA was extracted from pretreatment serum samples by the AGPC method using Isogen (Wako, Osaka, Japan) according to the manufacturer's protocol. Complementary DNA was synthesised using Superscript II (Invitrogen, Tokyo, Japan) and random primers (Invitrogen), and then amplified by two-step nested PCR using the primers listed in Supplementary Table 1. All samples were initially denatured at 95°C for 7 min, followed by 40 cycles of amplification with denaturation at 95°C for 15 s, annealing at 55°C for 15 s, and extension at 72°C for 45 s using the BD Advantage[™] 2 PCR Enzyme system (BD Biosciences Clontech, CA, USA). PCR amplicons were directly sequenced using BigDye Terminator version 3.1 (ABI, Tokyo, Japan) and universal M13 forward/reverse primers using an ABI prism 3130 sequencer (ABI).

Sequence alignment and analysis

Sequences were determined in both directions, particularly for the ambiguous stretches, were assembled using the Vector NTI software (Invitrogen), and base-calling errors were corrected following the inspection of chromatograms. If mixed bases were detected as two different chromatogram peaks at the same residue, only the dominant base was called after evaluation of all overlapping fragments. A consensus sequence was generated from the alignment on the basis of the most common amino acid at each site.

Determination of PI resistance mutations

Multiple viral NS3 mutations were observed in amino acid positions reported to confer PI resistance among 261 patients: V36, Q41, F43, T54, V55, Q80, R109, I153, R155, A156, D168, V170, and M175. NS3 amino acid mutations with proven PI resistance in previously published studies (Table 1) were designated as resistance proven mutations (e.g., V36M/A). Mutations in the PI-resistance site not known to confer drug resistance were designated resistance unproven mutations (e.g., V36I). Patients were allocated to two groups according to the presence of PI-resistance

mutations (including resistance unproven mutations), and clinical characteristics including HCV RNA levels and responses to PEG-IFN/RBV therapy were compared. To assess the influence of PEG-IFN/RBV therapy on NS3 mutational status, posttreatment HCV-NS3 sequences in 39 of 58 non-SVR patients were also examined.

Statistical analysis

Statistical differences in the data, including all available patients' demographic, biochemic, hematologic, and virologic data such as sequence variation factors, were determined among the various groups by Student's *t* test or Mann-Whitney *U* test for numerical variables and Fisher's exact probability test for categorical variables.

Results

Prevalence of dominant PI-resistance-associated nonstructural 3 mutations in untreated patients

Figure 1 shows the frequency of substitutions in 261 patients for each of 181 NS3 protease amino acid residues

compared to the consensus sequence. A total of 41 resistance proven mutations were detected in 35 (13.4%) patients: T54S (14 patients, 5.4%), Q80K (1 patient, 0.4%), I153V (22 patients, 8.4%), D168E (4 patients, 1.5%), T54S plus I153V double mutation (4 patients, 1.5%), and I153V plus D168E double mutation (2 patients, 0.8%). The mutation number increased to 54 in 47 (18.0%) patients when resistance unproven mutations were included: V36I (2 patients, 0.8%), I153L (11 patients, 4.2%), and I153V plus V36I double mutation (2 patients, 1.5%). Double mutations were found in 7 patients (2.7%) (Table 1). Q80L was observed in 47 (18%) patients but these were excluded from consideration because a previous study demonstrated that this mutation does not confer resistance [15]. All mutations observed in this study would confer low- to moderate-level PI resistance according to previous studies [6, 15–19]. No mutations conferring high-level resistance such as R155 or A156 [11, 17, 19–22] were observed.

Clinical characteristics of patients with PI-resistance mutations

Table 2 presents the characteristics of patients classified according to the presence of PI-resistance mutations

Table 1 Prevalence of PI-resistance-associated NS3 mutations

Drug-resistance mutations described in the literature				References	Detected resistance mutations Genotype 1b (<i>N</i> = 261), (%)
NS3 residue	Resistance mutations	Drugs			
V36	A, M, L, G, C	Telaprevir, Boceprevir	[1, 3, 4, 10, 11, 19, 31, 37]	I × 2 (0.8)	
Q41	R	ITMN-191, Boceprevir	[19]		
F43	S, C	ITMN-191, Boceprevir, Telaprevir, TMC435	[15, 19]		
T54	A, S	Telaprevir, Boceprevir, SCH900518	[1, 3, 10, 11, 19, 20, 31, 38]	S × 14 (5.4)	
V55	A	Boceprevir	[1]		
Q80	R, K	TMC435	[6, 15]	K × 1 (0.4)	
R109	K	SCH446211	[17]		
I153	V	SCH446211	[17]	V × 22 (8.4) , L × 11 (4.2)	
R155	K, T, I, M, G, L, S, Q	Telaprevir, Boceprevir, ITMN-191, BILN2061, TMC435	[1, 3, 4, 6, 10, 11, 15, 19, 20]		
A156	S, T, V, I, G	Telaprevir, Boceprevir, ITMN-191, BILN2061, SCH446211, TMC435, SCH900518	[1, 3, 4, 10, 11, 15, 17, 19, 20, 38]		
D168	A, V, E, N, T, H	BILN2061, ITMN-191, TMC435	[6, 15, 20]	E × 4 (1.5)	
V170	A	Telaprevir, Boceprevir	[1, 19, 20]		
M175	L	Boceprevir	[39]		
Total number (%) of patients with resistance proven mutations				35 (13.4)	
Total number (%) of patients with resistance proven and unproven mutations				47 (18.0)	

Amino acid mutations conferring PI resistance in the literatures and those observed in PI-treatment-naïve patients in this study are indicated. Bold indicates resistance proven mutations, and the others indicate resistance unproven mutations

Double mutations found were as follows: V36I and I153V × 1, T54S and I153V × 4, I153V and D168E × 2

(including resistance unproven mutations). Age, sex ratio, body mass index, alanine aminotransferase (ALT) levels, serum albumin, platelet count, and fibrosis stage did not differ between the NS3 mutation and wild-type groups. No significant difference was observed between the two groups in the parameters of PEG-IFN/RBV treatment response, HCV sequence variations in interferon sensitivity determining region (ISDR), Core 70, interferon plus ribavirin resistance-determining region (IRRDR), or interleukin 28B (IL28B) single nucleotide polymorphism (SNP) (rs8099917; T/G and G/G vs. T/T) [23–30]. These clinical variables were also compared between the mutation group defined as resistance proven mutations and the wild-type group, but no notable differences were observed.

Unimpaired in vivo fitness of viral strains with resistance mutations

Because most PI-resistance mutations described till date have been associated with reduced replicative capacity of varying degrees [1, 10, 11, 13, 17, 20–22, 31, 32], we examined viral replication levels in patients with drug-resistance mutations (Fig. 2). The estimated P value indicated no significant difference between the mutation (median 1,500 KIU/ml) and wild-type (median 1,800 KIU/ml) groups ($P = 0.69$). The results indicate that drug-resistant HCVs were not necessarily impaired in their ability to replicate in vivo. However, patients with double mutations ($N = 7$) tended to have low viral loads (median 1,200 KIU/ml) ($P = 0.09$).

Resistance mutations and virologic response to PEG-IFN/RBV therapy

To determine the difference in virologic response to PEG-IFN/RBV therapy according to the PI mutation, frequency of HCV RNA levels below detection at 4 weeks (rapid viral response, RVR) and 12 weeks (complete early viral response, cEVR), and SVR rate (%) were investigated in

each group. The frequency of HCV RNA levels below detection at 4 and 12 weeks was 14 and 50%, respectively, in the mutation group, and was 11 and 46%, respectively, in the wild-type group. The SVR rate was 48 and 40% in the mutation and wild-type groups, respectively ($P = 0.38$). No significant difference was observed between the two groups in any of the indexes investigated (Table 2). The time-dependent viral clearance rate during PEG-IFN/RBV therapy was estimated in 133 patients including 25 patients (19%) with PI-resistance mutations available for the analysis. Kaplan–Meier analysis demonstrated that HCV clearance did not differ between the two groups with and without resistance mutations (log-rank test, $P = 0.30$) (Fig. 3).

Changes in nonstructural 3 amino acid sequence diversity during PEG-IFN/RBV therapy

Full-length NS3 protease sequences were determined in 39 non-SVR patients after PEG-IFN/RBV therapy. A single amino acid change at resistance-associated sites in two patients was observed. In one patient, isoleucine (Ile) at position 153 changed to valine (Val), and glutamic acid (Glu) changed to aspartic acid (Asp) at position 168 in the second (Fig. 4). At the nucleotide level, ATC (Ile) changed to GTC (Val) in I153V, and GAA (Glu) changed to GAC (Asp) in E168D. Both mutations were caused by one nucleotide exchange. No other changes were observed in the other 37 patients.

Discussion

Here we report that in 18% (47/261) HCV genotype 1b-infected patients who had not been previously treated with NS3 PIs, the viral genome contained dominant amino acid mutations within the NS3 PI-resistance sites. Even after confining the data to established PI-resistance mutations, the mutation rate was still significant in 13.4% (35/261). No clinical differences were observed between patients

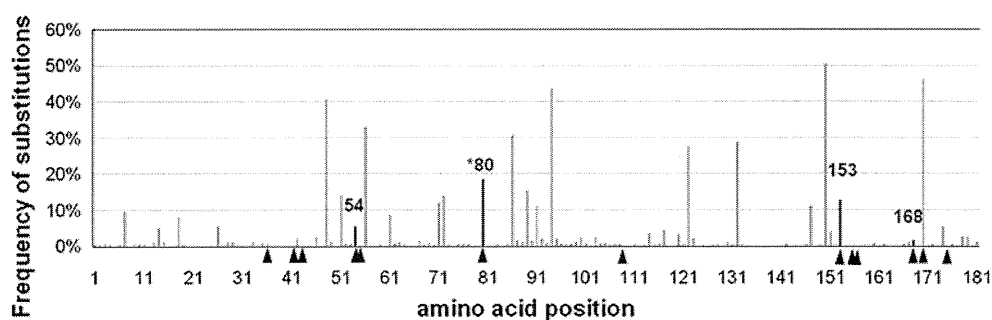


Fig. 1 Frequency of polymorphic mutations for each of the 181 NS3 protease amino acid residues in 261 patients. *Arrowheads* indicate the sites reported to confer PI resistance. *Dark bars* denote the amino acid

variations at the resistant sites in this study. *80, we detected one resistant mutation (Q80K) and 47 (18%) non-resistant variations (Q80L) at the 80th residue

Table 2 Characteristics of patients with or without HCV genomes harboring drug-resistance mutations

Characteristics	Mutation type (<i>N</i> = 47)	Wild-type (<i>N</i> = 214)	<i>P</i> value
Patients' characteristics			
Age, median (range)	59 (46–72)	57 (19–77)	0.17
Male, no. (%)	26 (55)	112 (52)	0.70
BMI, median (range)	23.2 (15.5–31.9)	22.8 (16.1–31.9)	0.41
ALT IU/ml	81.3 ± 72.6 ^a	74.8 ± 51.9	0.93
Serum albumin g/dl	4.00 ± 0.37	4.01 ± 0.36	0.81
Platelet count × 10 ⁴ /μl	15.8 ± 4.3	14.5 ± 4.8	0.18
HCV RNA KIU/ml, median (range)	1,500 (58–6,310)	1800 (28–15,849)	0.69
Fibrosis, no. (%)			0.97
F0	0 (0)	7 (3)	
F1	23 (50)	89 (42)	
F2	9 (20)	52 (24)	
F3	9 (20)	40 (19)	
F4	5 (11)	26 (12)	
IFN pre-treatment no. (%)	15/40 (38) ^b	66/172 (38)	1.00
IL28B (rs8099917) T/G or G/G no. (%)	6/20 (30)	19/67 (28)	1.00
Response to PEG-IFN/RBV therapy			
SVR total cases no. (%)	22/46 (48)	83/210 (40)	0.38
RVR in total cases no. (%)	6/44 (14)	22/195 (11)	0.83
cEVR in total cases no. (%)	22/44 (50)	92/200 (46)	0.75
SVR 48w treatment no. (%)	16/29 (55)	55/130 (42)	0.29
End of treatment response no. (%)	26/41 (63)	123/202 (61)	0.91
HCV genome sequence variation			
ISDR mutation ≤1 no. (%)	32/46 (70)	167/210 (80)	0.21
Core70 R no. (%)	26/44 (59)	136/210 (65)	0.56
IRRDR mutation >3 no. (%)	25/38 (66)	107/190 (56)	0.34

^a Mean ± SD^b Number/total number (%)

harboring viruses with and without these mutations. Moreover, no differences were observed in the responses of either group to PEG-IFN/RBV therapy.

Recent studies reported that significant number of patients who were never treated with PI possess viral sequences with PI-resistance-associated NS3 mutations. In these studies, the prevalence of PI-resistance mutations was determined to be 8.6–16.2% [13, 14], in HCV genotype 1- and 3-infected patients in European–American populations. These patients were often coinfecting with HIV. Analysis of the public HCV databases (EuHCVdb and Los Alamos) also reported the presence of naturally occurring PI-resistance-associated NS3 mutations in worldwide isolates [33]. However, *in vivo* and *in vitro* studies demonstrated that most of the mutations observed conferred only low- to moderate-level PI resistance [7, 13, 14, 34, 35]. Regarding viral fitness, PI-resistant HCVs show lower fitness at varying degrees as revealed by *in vitro* studies [1, 10, 11, 17, 20–22, 31, 32], but HCV RNA levels in a clinical study did not differ significantly. The response to PEG-IFN/RBV therapy was almost comparable to that in HCV-infected patients without PI-resistance mutations either in HCV replicon experiments or in a clinical study of small number of treated patients [34].

The prevalence of 13.4% for PI-resistance-proven patients observed in the present study was almost comparable to the results of previous studies. Although HIV is known to increase HCV replication in coinfection with HCV [36], and HIV patients are often treated with the HIV-specific PIs, the HIV infection might not affect the natural occurrence of HCV-specific PI-resistance mutations since our studied patients were all proven to be free from coinfection with HIV infection. As shown in Table 1 and Fig. 1, I153 V (22/261, 8.4%), T54S (14/261, 5.4%), and D168E (4/261, 1.5%) were among the most prevalent PI-resistance-proven mutations in the present study. The most frequent mutation detected in our study I153V was reported to appear secondarily to the occurrence of R109K mutations in a HCV replicon system [17]. Although the role of this mutation is not understood, the I153V mutation on its own conferred SCH446211 resistance to the HCV replicon to a lesser degree [17]. Interestingly, I153V was often found in double mutations in our study, as shown in Fig. 2. This suggests analogy between *in vitro* and *in vivo* data. T54S and D168E, the other frequent mutations, have been also reported to occur as single dominant mutations in previous *in vitro* or *in vivo* studies in HCV genotype 1

Fig. 2 In vivo fitness of HCV with PI-resistance-associated NS3 mutations. HCV RNA levels were compared between patients with and without NS3 PI-resistance-associated mutations (a) and between patients with each resistance mutation (b). The estimated *P* value (Mann–Whitney *U* test) indicates no significant difference between the wild-type and other groups (wild-type vs. mutation type, wild-type vs. single mutation type, wild-type vs. double mutation type). (Wild-type, *N* = 214; mutation type, *N* = 47; single mutation type, *N* = 40; double mutation type, *N* = 7; V36I, *N* = 2; T54S, *N* = 14; Q80K, *N* = 1; I153L, *N* = 11; I153V, *N* = 22; D168E, *N* = 4; E176A, *N* = 1; V36I + I153V, *N* = 1; T54S + I153V, *N* = 4, and I153V + D168E, *N* = 2)

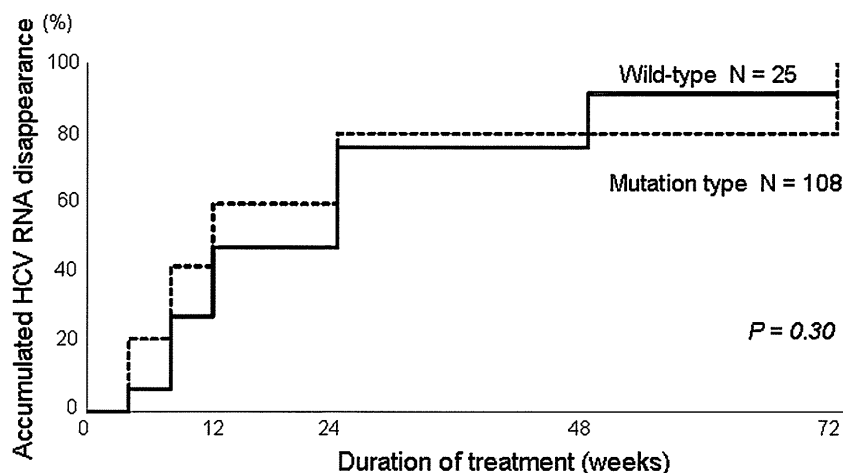
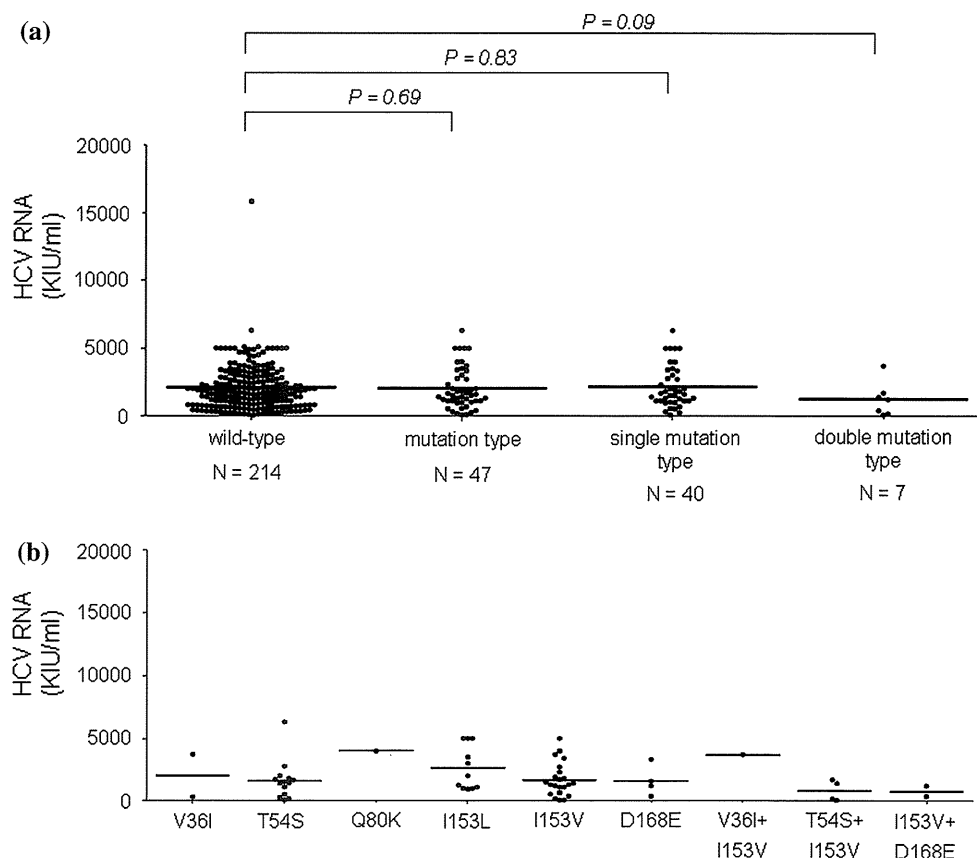


Fig. 3 Comparison of virologic response to PEG-IFN/RBV therapy between HCV-infected patients with and without PI-resistance-associated NS3 mutations. Time-dependent HCV clearance rate analysis was based on serum HCV RNA positivity during PEG-IFN/RBV therapy for HCV isolates with resistance mutations or wild-

type sequences. A total of 133 patients for whom the limit of viral genome detection could be determined were analyzed. Among this group, NS3 mutations were detected in 25 patients (19%). The estimated *P* value (log-rank test) shows no significant difference between the two groups (*P* = 0.30)

infections showing moderate degrees of resistance [16, 18, 19].

Most PI-resistance mutations described to date have been associated with varying degrees of reduced replicative

capacity [10, 11, 17, 20–22, 31, 32]. In the present study, HCV RNA levels of those patients with low- to moderate-level resistance mutations were similar to those in patients in the wild-type groups, suggesting that in vitro viral fitness